

中国和牛主任者協議会開催

去る3月14日岡山市において、中国各県和牛主任者協議会が開催され、農林省より岡崎技官、中国産業試験場畜産部より石原部長が出席、県側は広島県畜産課長を始め京都以西の和牛主任者が参加し次の事項について協議した。

1. 第17回中国連合畜産共進会について
2. 全国和牛連について
3. 有畜農家創設特別措置法について
4. 地方畜産界について
5. 種牡牛の国庫助成について
6. 全国和牛関係者打合せ開催について

なおこの協議会において和牛の生産、消費、流通対策が研究事項として取上げられた。

これ等の協議の要旨はおよそ次のとおり。

第17回中国連合畜産共進会

これは、昨年関係者の間で実施されることに内定したが、その後いろいろな事情で決定を見ず4月開かれる予定の中国知事会議に提案し決定することになる模様である。しかし各県とも準備を進めており出品牛の第一次選抜検査も終了し、又地元山口県においては開催予定地の徳山市が引受準備を進めている状況である。

有畜農家創設特別措置法について

現在無畜農家が対象とされているが、今後畜産団体の行う肥育事業の素牛に対しても同法を摘要できるように改正し導入資金の融資とこれに対する利子補給の実現をのぞむが、これは畜連が販売事業を主体としている上から、又今後和牛の消費流通面からも必要なことであり本省に対して改正方を要望することになった。

種雄牛の国庫助成

最近人工授精の普及により1頭当りの種付頭数増加にともない種雄牛の良否は、大きく和牛の改良に影響するため種雄牛の選抜が厳密となりその結果として価格が高くなった。このため個人有としては、経営

が困難で公共性の多い種雄牛は、国の援助を必要とし、現在行われている種雄牛の購入助成方式を改めて国有貸付としてもらいたい。しかも頭数を大巾に増加してほしいと要望した。

全国和牛関係者打合せ

現在いろいろの事業別家畜別の全国会議が開催されているが和牛関係には、このような催しがなくしかも和牛は、全国で260余万頭を飼育し、生産地、飼養地、消費地とその地帯性を生かして研究されているのでこの際関係者の打合せを持つことは、将来の和牛界のために有意義であるので本会議において開催方を決議した。

和牛の生産、消費、流通対策

研究事項として、生産改良、消費、流通に関する事項が取上げられたが、その内でも従来生産改良の面では、古くより研究され一例を見ても、和牛登録、共進会の開催、有料牛の保留等があるので今回は、主として消費と流通機構の問題が中心であった。

この研究事項の冒頭に石原部長は、長時間にわたり意見を述べ今後の和牛は、役、肉の利用の増進にあり、肥育の面においても、甲状腺除去、ホルモン注入など去勢牛の研究と利用面の研究を進め相当効果を上げているが実際に行われているのは、極めて小範囲であり今後これ等について勇気を出して実行し、又販売機構においても積極的に進められ、一連の強力な体制を実現してほしいと望んだ。

農林省の岡崎技官も国有種雄牛の問題、種畜検査の機構、家畜取引の改善等中央にあって日本和牛の歩みに迫力をつけたいと発言した。